

1. はじめに

今回のISOニュースは、最近起きている環境異変に関する話題を取り上げてみました。温暖化をはじめとして資源枯渇・エネルギー問題、食料不足・食の安全、環境汚染などの人類共通の環境危機に、企業として、また一人一人がどのように取り組んでいくのか今ほど切実に問われている時はないのではないのでしょうか。

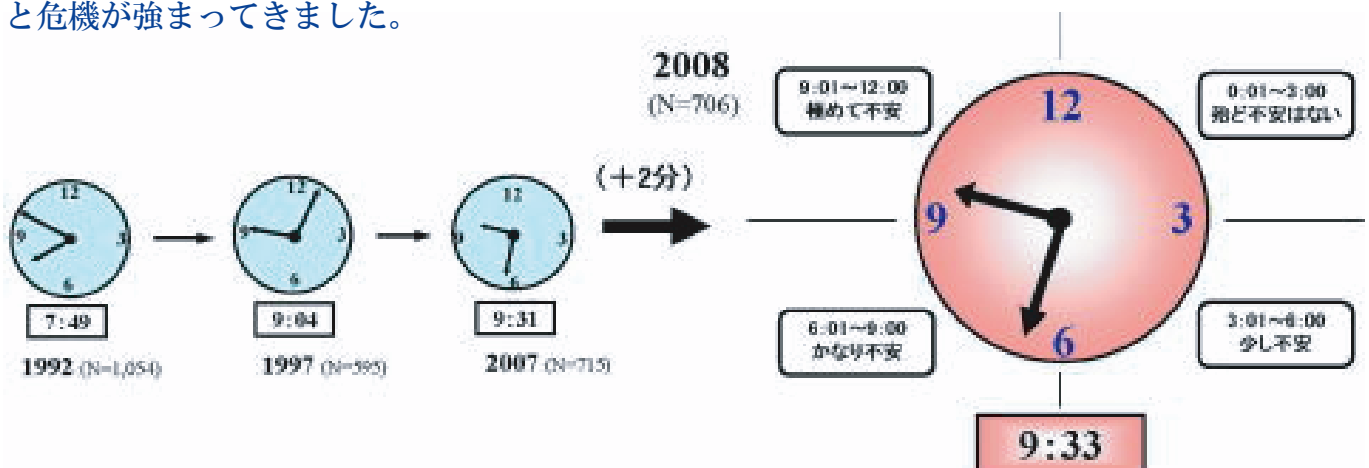
2. 環境異変に対する危機感

読売新聞が「環境」をテーマに行った先日の連続世論調査で、将来の地球環境に不安を感じているという人は93%の高い割合となっているとの記事が掲載されていました。具体的には温暖化に強い不安を感じている人が7割を超えており、その次に資源の減少、オゾン層の破壊、化学物質の環境汚染、自然破壊による野生動物の減少などが続いています。

「雪が降らなくなった」、「寒い日が減った」、「台風が今年まだ日本列島に上陸していない」など今までにない変化が身近で起きているという危機感はだれもが持っているのではないのでしょうか。とくに今夏は熱帯地方のスコールにも酷似した局地的な「ゲリラ豪雨」が各地に突発し大きな被害をもたらしました。この局地的な大雨は、まさに地球温暖化の影響ではないかとも言われています。温暖化で地球があえぎ、野生動物などの生態系にも多くに影響が出始めています。先日の朝日TV「列島異変2008」特番では九州が主生息地だったクマゼミの生息北限が茨城県まで北上、本州で南海の魚が増えたり、獲れるべき魚が本来の時期、場所で獲れなかったり、例えば多摩川ではカラフル熱帯魚が生息しているのが確認されたことなど生態系が破壊されつつあることを報道していました。また農産物の産地も北上し、果物の名産地では収穫が減少し、たとえばリンゴ、お米の生産地は北海道が主体になるとも予測されているなど環境異変の枚挙にいとまがありません。

3. 世界終末時計と環境危機時計

「世界終末時計」という言葉は耳にされたことがあるかと思います。原爆投下から2年後の1947年にアメリカの科学誌「原子力科学者会報」に初めて掲載され。実物はシカゴ大学にあります。核戦争による地球（人類）の滅亡を「世の終わり」（終末）になぞらえて、その終末（午前零時に設定）までの残り時間を象徴的に示す時計（45分～正時の部分を切り出し）のことですが、最近はずしも核からの脅威のみで時計の針の動きが決められているわけではなく、世界の様々な紛争状況、さらに環境破壊による人類滅亡をも考慮して針が決定されています。1991年にはソビエト連邦崩壊、ユーゴスラビア連邦解体による冷戦終結で17分前であったのが2007年は北朝鮮の核実験強行、イランの核開発問題、地球温暖化の更なる進行で5分前と危機が強まってきました。



「環境危機時計」は、旭硝子財団が1992年を第1回として毎年世界各国の環境問題の有識者に

対して実施している「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査の回答で示された地球環境問題の悪化に伴う人類存続危機の程度をどのように感じているか、時計の針にたとえて表示したもので人類滅亡の時刻を12時としています。

今年81カ国の有識者732人の回答で、調査開始以来最悪の「9時33分」となったと発表されました。地球温暖化に関する世界中の数千人の専門家をつくる、地球温暖化についての科学的な研究の収集、整理のための政府間機構である気候変動に関する政府間パネルが発行する「評価報告書」に北極海の海水の減少や洪水の多発など地球温暖化による影響の顕在化を指摘したことが反映されたとみられています。

時刻を決めるうえで有識者の68%が「地球温暖化」を念頭に置き、「水の枯渇と食料問題」も関心が高くなっています。地球全体では昨年より2分進んだだけでしたが地域ごとの時計は日本が9時42分、北米が10時13分、西欧が9時44分とそれぞれ8分、33分、21分と大幅に悪化しました。全体として環境教育、自治体や市民の参画、科学・技術の貢献、リサイクルシステムの構築は進展してきていると評価されていますがライフスタイルの変更は進展していないとの結果となっておりライフスタイルの変更を阻む主要な要因としては、すべての地域において「重要性は認識するものの、実践活動は面倒である」、約半数の地域において「自分一人がライフスタイルを改めても効果がない」となっています。

4. 暮らしを変える

地球温暖化防止のためには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減少させていかなければなりません。世界規模の問題であり一人一人の認識も大切です。二酸化炭素を排出することが、生活を豊かにしているだけに、二酸化炭素を排出しないようにするとういうことは、生活レベルや考え方も根本的な改革が必要になってくるのです。これから先、未来のためにも、もっと積極的に温暖化防止に取り組むことが大切なのですが、経済的に難しい部分もあるかと思えます。1つの国だけでは、どうしてもできない問題だけに、世界の国々が協力しなければならない。何もしなければ、将来を担う子供たちがどうなっていくのかわかりません。誰だって、未来の子供たちを犠牲にしようとは思いません。今よりも二酸化炭素の排出量が増加せず、できるだけ削減に取り組むこと。これが大事なことです。

当社はISO14001を認証取得し環境マネジメントシステムによる環境保全活動に積極的に取り組んでいます。また環境省主催のチーム・マイナス6%に参加し二酸化炭素削減に貢献しています。私たちが職場ではもちろん、家庭でも積極的に取り組んでいきましょう。

PS

先日、朝日TVで放送された「列島異変2008・ニッポン熱帯化の恐怖」を録画していますので興味のある方は環境管理室にお気軽にお問い合わせ下さい。

(DVD-R または ビデオテープ)

参考文献 第17回地球環境と人類の存続に関するアンケート(財団法人 旭硝子財団)
環境シンポジウム「2050 そのとき地球は」(読売新聞 2008. 6. 26 朝刊)
環境連続世論調査 (読売新聞 2008. 6. 27 朝刊)
列島異変2008・ニッポン熱帯化の恐怖(朝日テレビ 2008. 09. 20)